

はしがき

ジョージ・クラック

2009年は、エイブラハム・リンカーンの生誕200年を記念する年に当たる。この大統領は、米国が生んだ最も偉大な指導者であると見なされることが多い。米国人のリンカーンに対する敬愛の念は、南北戦争の激闘が終わった1865年、彼が暗殺による悲劇的な死を遂げたことに始まる。この戦争では、62万3000人が死亡し、米国連邦は最大の訓練をしのぎ、奴隷制は廃止された。そして米国の偉人の中で、リンカーンは今なおとりわけ神聖化され続けている。リンカーンについて書かれた本は、今日までに1万4000冊以上出版されている。現代の学者であるダグラス・L・ウィルソンによれば、リンカーンは「全米国人の中で最もよく知られ、最も広く賞賛されている人物」であるという。

リンカーンの研究書が山のように大量にある中で、新たにもう1冊を加えようとする理由は何か。それは、この国の建国から現在に至るまで脈々と続いてきた米国の基本理念を、リンカーンが体現していると考えからである。

この第16代大統領のビジョンを信奉する米国人のひとり、第44代大統領のバラク・オバマである。連邦上院議員に初めて選出されたばかりの2005年、オバマは自著で、自身の立身物語よりも実現性の低いシナリオを想像することは難しいが、「例外がある」とすれば、ケンタッキー州の片田舎に生まれ、学校教育を1年足らずしか受けなかった子どもが、最後にはイリノイ州で最も偉大な市民、米国で最も偉大な大統領になったというシナリオであろう」と明言している。

オバマはこう続けている。リンカーンの経歴を見ると、「彼は貧困から身を起し、言葉と法律に精通し、個人的な喪失を乗り越えて何度も敗北しながらも決意を変えない能力を持っていた…このことは、米国人の生き方におけるより大きな基本的要素をわたしに思い起こさせた。つまり、われわれはより大きな夢に合わせて自らを常につくり変えることができるという揺るぎない信念である」

一流の歴史家を集め、さまざまな観点からリンカーンの考察を試みてもらうことによって、世界中の人々がこの偉人の原点とともに、米国人の心に占めるその特別な位置を理解できればと、われわれは願っている。

本稿は、点描画風にリンカーンの人物像を描き出している。まず、序論で、エイブラハム・リンカーン生誕200年記念委員会事務局長であるアイリーン・マッケビッチが、リンカーンに対する個人的見解を述べる。冒頭の論文「今日の米国人にとってエイブラハム・リンカーンが意味するもの」では、ジャーナリストのアンドリュー・ファーガソンが、リンカーンに関する膨大な書物、リンカーンゆかりの品の収集家、大衆の前でリンカーンを演じる俳優たち、首都ワシントンにあるリンカーン記念堂について考え、それが物語るリンカーンの永続的な魅力を探る。次に「偉大なる存在への地ならし：1854年までのエイブラハム・リンカーン」で、歴史家ダグラス・ウィルソンが、辺境の丸太小屋で身分の低い両親の下に生まれた少年が、この国のあの「偉大な原型」、——すなわち自分の腕一本で身を立てる男——になろうと決意する物語を詳述する。「国

民を動かした言葉」では、リンカーンの伝記作家であるロナルド・C・ホワイトが、リンカーンのもうひとつの卓越した才能を描写する。すなわち、彼は雄弁家であり、聖書のようなリズムを持った格調の高い語り口で国民に希望を与えると同時に、庶民の素朴な知恵まで駆使する言葉の達人であった。

さらに、南北戦争という大きな国家的危機を通じて、リンカーンが果たした指導者としての役割を3つの論文で分析する。このうち、「ホワイトハウスへの道：1854年以降のエイブラハム・リンカーン」と「奴隷解放論者としてのリンカーン」では、本稿の編集者であるマイケル・ジェイ・フリードマンが、南北戦争の原因となった問題と、南部の奴隷に自由を与えた1863年の「奴隷解放宣言」をリンカーンが発するに至るまでの出来事を明らかにしている。また南北戦争史研究家のピーター・カズンズは「最高司令官としてのリンカーン」で、実戦力のある連邦軍とそれを指揮する幹部の将軍たちを養成するために、大統領が乗り越え



リンカーン記念堂(上)。その中央にあるダニエル・チェスター・フレンチ作のリンカーンの彫像(次ページ)は、ワシントン記念塔のある東の方角を向いている。

IN THIS TEMPLE
AS IN THE HEARTS OF THE PEOPLE
FOR WHOM HE SAVED THE UNION
THE MEMORY OF ABRAHAM LINCOLN
IS ENSHRINED FOREVER



なければならなかった障害を考察している。最後に、外交史家のハワード・ジョーンズは「外交官としてのリンカーン」で、リンカーンが戦時下の大統領として乗り切らなければならなかった国際関係面での落とし穴と、それに実際にどう対応したかについて述べている。

リンカーンに関しては、ありとあらゆる書籍、論説、賛辞、会議がありながら、謎に包まれた印象が残っている。

結局、リンカーンという人物はあまりにも偉大かつ多彩であり、様々な意義と結び付けられやすい存在であるため、あらゆる種類の米国人がしばしば自分の大義名分のために彼を味方につけてきたようだ。おそらく、アンドリュー・ファーガソンが最近のインタビューで語ったことが、この象徴的人物が持っていた力を最も適切に言い表している。「リンカーンはまた、国民的信条の基本的な部分にわれわれを立ち返らせてくれるのです。象徴的存在と

してのリンカーンは、連邦だけでは十分ではないという考え方をわれわれに思い起こさせてくれます。連邦は、すべての人は平等に創られているという命題のために献身的に努力しなければならないのです」

ジョージ・クラックは米国国務省国際情報プログラム局出版室長である。